

市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」

【対象者別】星槎国際高校立川（概要）

日時：令和7年1月31日（金）

16時15分～17時45分

場所：星槎国際高校立川

1 開会の挨拶

（改革推進課長）

それでは、定刻前ですが、ただいまから、市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」を開催させていただきます。

私は、タウンミーティングの事務局を務める市長公室改革推進課の奥野と申します。本日は全体の進行等をサポートさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は、立川に通い、立川で学ぶ高校生世代の方を対象としたタウンミーティングということで、星槎国際高校立川さんにご協力いただきまして、皆様のホームである学校にこのような形でお邪魔して、意見交換をさせていただくこととなりました。まずは、このような機会をつくっていただき、立ち上げの段階からご協力いただきました多賀先生はじめ、星槎国際高校立川の皆様に改めて感謝申し上げます。

また、本日は放課後の時間帯にも関わらず、日頃から地域活動等に参加されている生徒さんを中心にお集りいただいたと伺っております。ぜひ、皆様の若さあふれるご意見を市長にお寄せいただくとともに、これからの立川市をこうしていったらもっといいまちになるんじゃないかなといったお話、遠慮なく市長にぶつけていただいて、本気で語り合っていいただければと考えています。

本日の予定ですが、初めに酒井市長からご挨拶をいただいた後、意見交換に移ります。意見交換終了後、市長から閉会のご挨拶をいただいて、最後に集合写真を撮って、17時45分に終了予定という段取りで進めさせていただきます。

それでは、酒井市長、ご挨拶をよろしくお願いいたします。

（市長）

皆さん、こんにちは。1年5ヶ月ぐらい前から立川市長を務めております。酒井大史です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、高校生の皆さんとこういう機会を持てて大変嬉しく思っています。私は、子育て真っ最中で、サザエさんで言うと、設定上の磯野波平さんよりも実は年上です。そこに、カツオのような息子とタラちゃんぐらいの娘がいます。そういった家庭環境の中ですので、普通の56歳のおっちゃんよりは、少し皆さんに近い感覚、若いお父さんには負けないぞという思いで日頃生活していますので、市長といたら何か怖いんじゃないかなとかんとかって一切関係なく、気軽にタメ口で構いませんので。「言っちゃお！市長へ。」じゃない。市長へというのはただ単に市長に文句を言って、あれをこれをやれよじゃなくて、「言っちゃお！市長と。」です。市民の皆さんとか立川市に関わる人に、このまちを変えていくパートナーになってほしい、というエッセンスも酌みながら、「言っちゃお！市長と。」という形でタウンミーティングさせていただきます。

どうか皆さんからは、ざっくばらんなお話をいただければなと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

(改革推進課長)

続きまして、今お手元にもお配りしている、昨年11月に行った事前アンケート、そこでお寄せいただいた意見をもとに、皆さんの思う立川市についてをテーマに10分ほどやり取りできればなと思っています。

市長にも事前に目を通していただいておりますので、市長からの投げかけという形でまず意見交換を始めたいと思います。よろしくお願いします。

2 意見交換

(市長)

アンケートを見させていただいた中で、なぜか良いところと悪いところで両方になぜか載っているんだけど、治安が悪いのもいいところかって、これはなかなかやんちゃでいいねと思ったりするんだけど。

皆さん、特に立川駅南口って夜、やっぱり雰囲気として何か直接的な被害を受けるわけではないけど、何か嫌な感じがするのかなと思ったりするんだと思います。一般的にはそれってあまり良くないところだよねと言われちゃったりするのかなと。何人かいくつもそういう同じ回答をされている方がいらっしゃったので、その部分について何か私ですというのがあったら、教えてもらえればなと思ったのですが、どうですか。

(改革推進課長)

まず、最初の治安に関して、こういう経験をしましたなんていうことも含めて、もしある方いたら。

(参加者)

客引きが多いんですけれども、あれは放置しているんですか。

(市長)

放置はしていません。本当は客引きは駄目なので、今ちょっと黒い服を着たガードマンの人に、昔は怖そうなガードマンでない人だったんだけど、それを何年か前に変えたんですよ。客引きをしている場面を押さえれば駄目ですよということをしているんだけど、私たちごっこということと、あとは罰則規定がないんですよ。

ずっと付きまとうと立川市の条例ではなくて、東京都の迷惑防止条例とかにかかってきて、警察官が現認をすれば、現認というのはその場で見つければ、逮捕なりということなんでしょう。今、実践に紐づいて何かをやっているというところでは、立川市の条例上も駄目ですよということになっているので、一応注意喚起と、あとは交通指導をするということでやっているのが現状です。少し体感治安という関係からいくと弱いところなのかなというふうに思います。

私の公約の一つでもあるので、そこはいろいろと手を変え品を変えやっていきたいなと思っています。体感だから、人によって感じ方って違うところは難しいんですけれども、それは一つ一つ、今やっていることもきちっとやりながら、それでも駄目なら次、警察とも良く連携はしているので、取り組んでいきたいと思っています。

(改革推進課長)

他にいかがでしょうか。

(先生)

皆さんの中で声をかけられた経験があるひとは。

(市長)

店に寄っていないかとか、ホストにならないかとか。

(参加者)

自分は、1人で歩いていたら幼く見えるんで声かけられないのに、先生とか一緒に帰るときは大人に見られるので、そのときに声かけられるというのはあります。

(市長)

先生、声かけられやすいタイプですか。何か付いていっちゃいそうな雰囲気も持っているのかな。私は逆に楽しんで声かけちゃったりするけれどもね。駄目だよとかって。

(参加者)

ジャケットを着て見回ってくださっている方がいらっしゃったりするときは、そういうときは安心して通ったりとか。あと、南口のあの辺りはいいお店もあるので、それこそ今は良いのか悪いのか分からないですけども、客引きがいるという状態に慣れてしまったので。なので、行けるんですけども、初めて立川市に来て学校から帰るときとかすごい怖かったというか。

(市長)

そうですね。おっしゃるとおり美味しい店もあるし。だけど、客引きって一般的に女性の方だとかあるいは子ども、小さい子どもたちにとって怖いじゃない。そういういろんな人が安心して食べ歩きができたというまちにしていきたいと思っています。あと、ほぼ1年ぐらい経つのかな。この間、南口の地域の人たちが週1回やってくれているんだと思うんですけども、年末になると警察署長と私も一緒に、北口から南口まで2時間ぐらい歩くんですね。それで警察署長とぶらぶら話ししながら、南口のあるところの2階に何とかガールという店があるけど、明らかな違法とは言えないレベルの店があるんだけどと話をしました。今の警察署長さんは、そういう話すると、生活安全課の担当署員に見に行かせますよといって、実際行ってくれたみたいで、ちゃんと法律の範囲内で警察側も注意喚起はしてくれているという、そういう状況はあります。

(改革推進課長)

ほか、市長に聞きたいお話があれば。

(市長)

ラーメン屋の田田が好きっていう意見がありました。私なんかが行くと次の日お腹痛くなるんですけども。立川市って結構ラーメン屋さん多いじゃないですか、ラーメンスクエアがあったりだとか。涙出るほどおいしいラーメンってなかなかあれだけど、ここのラーメン屋さんおすすめですみたいなのが、もしあったら教えてほしいな。

(先生)

おすすめのラーメン屋さん1つ何か。

(参加者)

チェーン店なんですけれども、一蘭、めっちゃいいです。

(市長)

濃厚とんこつ醤油系が好きとか、あっさり系が好きって分かれるじゃない。私程々系が。

(参加者)

立川駅の南口にゲームセンターあるじゃないですか。あの通りをずっと真っすぐ行った辺りに分岐点あって、そこを曲がるとラーメンスクエアみたいな感じのところにあるラーメン屋さん、私はあれめっちゃ好きです。

(市長)

蒙古タンメンまだあるかな。

(参加者)

まだあります。すずらん通りに。

(改革推進課長)

ラーメンの話しをしていると終わりがなさそうなので。

そろそろ本題のほうに。今日を迎えるに当たって、予めこんなテーマに沿ってやっていければいいなということでお示ししたものが3つあります。

1つ目が、皆さん普段からいろいろな地域活動参加されているというお話を伺っていたので、地域活動への参加を通じて感じていることありますかというお話。それを通じてこの際市長にとか、周りの大人にこういうことを感じてというので何か意見があればということです。

次が、これまでの人生、皆さんまだ若いですがけれども、いろいろ紆余曲折あった中で苦労したことだとか、困ったことだとか、またそのときに周りの大人がどうしてくれたことが嬉しかったとか、実はこうしてほしかったみたいな、悩みみたいなこともこの際、市長にぶつけていただければというのが2つ目です。

最後の3つ目は、市長とこうやって直接お話する機会はそんなにないと思うので、いろんな話をフリーにという時間も最後に設けられればなと思っています。

それではまず、1つ目の地域活動への参加を通じて感じていること、また、その中で大人だとかに要望だとか感想なんかでも構わないので、ありましたらぜひ手を挙げていただければというふうに思います。いかがでしょうか。

(参加者)

私は、今年から結構多くのボランティア活動に参加させていただいて、初めて行ったのが、立川いったい音楽まつりで、そこで担当のスタッフの方とよくお話しさせていただいて、また来年よろしくねみたいに会話をして、そのときは終わったんですけれども、9月頃にたまたまお世話になった先輩の方々と会って、覚えていてくださったんですけれども、人と人とのつながりが、ボランティアの方とこうしてできたのが一番よかったと思いました。

(市長)

いったい音楽まつりは、いろんな人が集まって、サンサンロードのまち全体が音楽であふれるというのは面白いなど。私も去年、嘘か本当か分からないけれども、市長に初めてご挨拶ということで、お呼びしましたって言われたので行ってきました。

(改革推進課長)

ほか、いかがでしょうか。

(参加者)

1 個質問というか気になったところなんですけれども、私、立川市、それこそ錦町であったりとか幸町であったりいろいろなところでボランティア活動をしておりまして、行くと大体若い人が私ぐらいしかいないとか、高校生を連れていくとすごい喜ばれるというか、若い人が来てくれてありがとうと言われます。

この間詳しくお話聞いたときに、担い手であったりとか徐々に高齢化であったりとかで、イベントの存続が難しいであったりとか、活気自体が出てこないというようなお話を伺ったので、そのことについてどのように思っているのかなみたいなことを市長にお聞きしたいのですが、よろしいですか。

(市長)

ありがとうございます。今、市内でもいろいろ地域性もあったり、住民が昔から住んでいる方が多いところだと隣近所の顔が見えていて、その人たちが好むか好まないかは、心の中までは分からないけれども、いろんなイベントごとをやっている。それを青年部とかをつくって、巻き込んでやっているとところもあるんだけれども、全体のトレンドとしてはなかなかそういった地域、例えば自治会に入らない人も増えているし、子ども会、老人会ですら解散している。

まちの人たちは、若い人に本当に来てほしいと思っているんですが、なかなかそこにどうアプローチしていいのかということも分からないし、逆に親がそういうことをやっていると、一緒に子ども連れてということがあるんだけれども、きっかけがないじゃないですか。高校生のみなさんや中学生のみなさん、あるいは大学生、今の若い人たちって何となく忙しいよね。最近思うのは、私らの子どもの頃って、それこそ小中学校の頃って、学校から帰ってくるとボールとバット持って学校で、私らの頃は野球で、ガラス割って先生に怒られたりだとかということも経験しながら成長してきているんだけれども、あまり外で遊んでいる子って少ない。だからどこに誰がいるのかなというのがなかなか見えづらい。

その一方で、もしかしたらこれが原因なのかもしれないけれども、個人情報保護法ができてから連絡網を作らないじゃない。誰がどこにいるのかということ、自己申告で私入りますと言わないと、あなたのところに何年生いるよねとかということとか、誰々君いるよね、誰々さんいるよねという情報がそういったことを活動している人が入手できない、きっかけが持てない社会になっているところもある。個人情報を守るというのは大切なんだけど、ただ、その一方で地域のつながりだとかそういった情報を得るところでは、少し阻害要因になっているのかなという気はします。

でも、たぶん地域の人たちは、高校生だとか大学生だとか中学生にしても、若いみなさんをウエルカムだと思うし、一例だけでも、地域の防災訓練について、地域によっては小学校の防災訓練と一緒にわざとやっている。学校とうまく連携取れている。そうすると、防災訓練っ

てなかなか来る人も少ない、だんだん来る人も決まっていって、学校と一緒にやると、その学校に行っている子どもの親もとりにあえず顔出してみようかなみたいな形で、逆に中学生なんかと一緒にやると、いざというときには中学生や皆さんのほうが数倍か数十倍頼りになるんじゃないのかなと思うので、ぜひ皆さんにも社会に関わりを持てるような方策について、考えてほしい。ほかの子が行ってもいいのかなとか、何か見えない壁って世の中ってあるじゃない、空気って。そこを逆に市であったり、別に行政じゃなくてもそれぞれの地域のボランティアに行っているような団体だとかそういったところが、どういうアプローチをしたりだとか、どういう雰囲気をつくったらみんなも参加したいというふうに思えるのかということ逆質問になってしまうけど、参考に教えてもらいたい。

（参加者）

私だったらですけども、例えばチラシとかに来てくださいとか、大歓迎とか書かれていても初めましてのところだし、ちょっと行きづらいなと。こういうことをやっていますよみたいなのもっと詳しく教えていただければ、自分だったらこれできるかもみたいな、ハードルが下がるかなと思います。

（市長）

こういうことをやっていますよということのお知らせの仕方、まずそのお知らせをするときに、それに行ってもいいのかなという壁があるじゃない。それって皆さんがこういうことをやっていますよ、行ってみようかなと思うことの情報を仕入れるネタというのは、何が一番いいですか。

（参加者）

SNSですかね。

（市長）

私は主にYouTubeのショート動画を主としてやっているけれども、インスタとか、アップーエイジの人はFacebookの利用が多いとか、Xがいいとか。どういう情報発信であつたらみんなに届いて刺さるのかな。ぜひ、この媒体が好きっていうのがあつたら教えてください。

（先生）

使っているSNSについて、手を挙げてください。

（SNSを個別に挙げていき、生徒が手を挙げる。）

インスタが優勢ですね。

（市長）

やっぱり何となくトレンドで聞いていたとおりなんだよね。Facebookはやっぱりアップーエイジなんだよね。

（先生）

ほかに何かありますか。

（市長）

自分でラジオ番組持っている人とかいないよね。

（参加者）

若い人に来てもらうというのが目的であれば、インスタがいいんじゃないかと思います。若いとか年齢関係なく幅広い人に来てもらいたいというのであれば、Xを使うのがいいんじゃないかなと思います。

（市長）

立川市はインスタはやっていないよね。

（改革推進課長）

インスタは、産業振興課などが立川市にこんないいお店ありますよみたいなのを若干載せていたりはするんですけども、立川市全体の方針としてはやっていないです。

（市長）

XとLINEで通知するというのはあるんだけど、インスタですか。ありがとうございます。

（参加者）

地域活動の参加を通じて感じたことは、私、一昨年の10月、多賀先生から言われて参加したんですけども、漫画のネタになるとかですかね。実際、スタッフの仕事の中で経験したこととか、いろんなこと含めて、これだけでも連載漫画書けるんじゃないかということが私が感じたことです。

質問は、市長は立川の仕事をしているわけですけども、仕事をしている中で立川市のここが推せるというポイントはありますか。好きなところとかあれば教えてください。

（市長）

意外と難しい質問だね。今市長という立場では、若い人にも子育て世代にも選んでもらえるまちにしたいなという中で、いま子育て支援ってトレンドじゃないですか。従来であれば高齢者向けの施策が多かったところを少し子育て世代だとか若い人への軸足を変えてみようかなというところで、来年度に近隣の市と連携して子ども会議みたいな、子ども議会みたいなのをやっていこうとしているんだけど、若者会議みたいなのをやって、そこで施策を取り入れていこうかということをやろうと思っています。ハード面でいうと、立川市ってやっぱり便利じゃないですか、新宿だなんだとかって出ていなくても、ほぼ特別なことを求めない限りは立川市で完結ができるのかなというところは、一つの売りなのかな。

よく立川市の魅力って何ですかというときに、市長っぽく言うと、駅前の交通の結節点だから凌ぎ合っていたんけれども、商業が発展してって、映画館もあるし、何でもあるしって、お買い物するところも満載。昭和記念公園をはじめとした緑があって、さらに都市農業もあって、地場産野菜だとか地産地消だとか、そういったものもあって、ウドだけじゃないよという売りがある。そこに住民がうまく住んでいるというところで、さらにさっき地域でいろんな、まだ都市部よりは活動しているところがあるんだよって。さらに私はそこに芸術だとか、あと、ある企業が一生懸命やって、スポーツを通じてプロスポーツ、バスケットがあったり、フットサルがあったり、スケートリンクができたりとかっていう形で、スポーツを通じてという魅力を

発進をしてくれているというところ。これは市がどうのこうのじゃなくて、うまく溶け合っている。

そこにさらに私的には、将来的には何か文化的なことで、普通のコンサートでもいいし、演劇でもいいし、オペラでもいいし、そういったことが、さっきの立川音楽いったいまつりじゃないけれども、毎週何か立川市ってイベントやっているよね、何かワクワクするよねといううな、そういったまちになればいいなというふうに思っています。

今日、明日、明後日と、東京都が、GREEN SPRINGSで夜6時からか、30分おきぐらいにプロジェクションマッピングをやるので、帰り際にでも、もしそういう時間になれば、ステージガーデンのところに映す感じでやるので、私もどこかで見ようかなと思っているんだけれども、そういう楽しみがあるということが一つの魅力かなという。

（改革推進課長）

ほかに、地域活動の中で女性の意見も聞いてみたいと思います。

（参加者）

地域活動でいろいろやっているんですけども、やっぱりこの地域活動があるから参加してみないというのを言われないと、そんなのもあるんだってなれないというのが、一番地域のイベントが実現しない理由なのかなと思いました。

（市長）

情報として、要は受け手の側にうまく伝わっていないという。だから、それってたぶん、何となく想像つくんだけれども、地域の身内の中でとりあえず止まっちゃっているという、それをより多くの人にウェルカムな情報の発信の仕方というのもしないと。皆さんたちにインスタを使ってとかっていうことだよ。

（参加者）

インスタもやっぱり調べないと、地域イベントがあるんだということにならない。

（市長）

どうやったら分かるかな。一番分かりやすいのは子どもが寄ってくるやつなんだけれども、住んでいる町会なんかでも夏盆踊りやるじゃない。音楽流れていると、町会だけじゃなくても隣の国立市の何か開いて音で寄ってくるのってプッシュ式じゃない。それがうるさいという人も最近世の中にはいるんだけれども、でも日本の夏の伝統行事としては楽しい、別に踊るのが楽しいわけじゃなくて、夜店もあるのが楽しいという、おはやしの音がお祭りで聞こえたりだとか何とかという、ちょっと好きな人はそれでウキウキというのは、五感の中で聴覚を通じて匂いで誘われるということがあるけれども。そういった何か大きいイベントでないとどう発信、それも確かに検索しないと分からないけれども、どうしたらいいですかね。教えてください。

（先生）

最近YouTubeショートとかですかね。みんな流している。立川市というのがYouTube内で引っかかっていると出やすくなる。

（市長）

ハッシュタグをつけておくとか。

私のYouTubeも、毎週土曜日の夜6時にショート動画、この1週間にこんなことがありましたって、実は今日もう撮ってきちゃっているんだけど、こんなことがありましたって入れて、高校生の皆さんとタウンミーティング今週やりましたというのを、時系列は本当は違うんだけど、今日また夜ここで撮った写真使ってよければ、それを挟んで3分以内に。

市の公式のYouTubeのショート動画よりは、私のショート動画のほうが再生回数回ったり、底辺の争いなんだけれども。政治家になって、際どいことを言わないとバズらないじゃない。なんだけれども、地道にやっていくところもいいのかなと思いつつながら。

登録者数もなかなか1,000人超えないんだよね。1,000人超えると、別に収益が欲しいんじゃない。私選挙のときに訴えたり、それって一部の人じゃない。わざわざ聞きに来ないじゃない。なので、YouTubeライブで毎日5時半、酒井大史って言って、毎日選挙期間中にYouTubeでライブ放送やるから、どこの駅とか何とかというのをやるときに、1,000人超えていないと別のアプリを入れてそこを介してやらなくちゃいけないのが面倒くさいから、早く1,000人にならないかなと思って。

皆さんを何か誘導するようだけれども、通知まではしなくてもいいから登録してねって。今705人、あと295人欲しいって感じだよ。

（改革推進課長）

時間的には、次のテーマにいかなきゃなという感じなんですけれども、まだもし何かあれば。

（参加者）

私は、高校生になってからボランティアに参加させていただいて、中学生のときは不登校で、バイトとかやってみたらどうなのと母親にも言われたんですけども、勇気が出ずに、多賀先生に誘われたボランティアが社会経験の一つになって、いますごく自分はその面で助かることが多いです。その中で、私はいま日野市で、平和事業というのに携わらせていただいて、先週の土曜日にその会に参加させていただきました。日野市だけでなく、市外の方々にも平和というのを考えていただきたいなというところがありまして、ぜひ立川市の皆さんにもそういう若い方々に考えていただくために宣伝とか、一緒にやっていただけないかなというのをその会議の中で、お願いできないかなという話が出て、ぜひこの機会に酒井市長さんをお願いしたいなと思います。

（市長）

立川市も中学生向けに、それはごく限られた子どもたちになってしまうんだけど、毎年8月に平和学習ということで広島に泊まりがけで行って、作文書いてというので一応各学校1人を選ばせていただいています。去年、私も議会から、市長も1回子どもたちと一緒にやってきたらどうですかというのがあったので、じゃあ行きましょうというので行ったときに、実は去年も申し込んだんだけど選ばれなかったんですけども言った生徒がいて、その子は、去年同じ学校で選ばれた子に作文の書き方を教わったそうで、これは受験対策としては大正解で、その子はその子でそういったことに何が何でも参加したいという思いを持ってやってくれて、それぞれ学校に戻って、またフィードバックしてもらおう。それから、国を守っていくという政治家の最大の使命というのは、やはり総理大臣になれば国民の平和と国の安全と独立を守ることだし、市長であれば市民の安全と暮らしを守ることだけれども、政治家に通底をしてい

ることは、要は、攻め込まれちゃった時には何かしなくちゃいけないということだから、ある一定の防衛力というのは、私は持っていないと危ないなとは思っているけれども、自分の子どもや大切な人を戦地に送りたくはない、今のロシアやウクライナのように。そのために、一定の防衛力は持ちながらも、私は外交力が大切だと思っていて、外交力を身につけるにはコミュニケーション能力と語学力じゃないですか。最後、どこかで折り合いをつけるのも、ネゴシエーションができるような能力を持っている人材を育てていく、要は戦争が起きない社会をつくるのが、政治家としての最大の使命なんだろうなというのは、私は自分の親からそういうふうに聞きました。

立川市も平和都市宣言していて、議会でも言っているんですけども、今年戦後80年じゃないですか。80年という機に核の問題も、まさか使わないからそこまでは愚かではないと思うけれども、それで威嚇しているので、立川市もそういう姿勢を明確に示そうということで、核兵器廃絶、非核というところをこの平和都市宣言の中にもそういう書き方には謳っているけれども、それをよりクローズアップするような形の宣言をして、そういう協議会にも入ろうかなというふうに思っていますので、うまく日野市とも立川市として何か連携ができるのかというのは、模索していきたいなと思っています。ありがとうございます。

（改革推進課長）

それでは、2つ目のテーマに移りたいと思います。

2つ目のテーマは、これまでの人生を振り返って苦労したこと、困ったこと、そのとき周りの大人たちにこうしてほしかったとか、こうしてもらって今がある、どちらの観点でもいいですけども、もしありましたら手を挙げていただければと思います。

（参加者）

私は市外在住で、小学校のときに不登校になりまして、そのときの学校の先生の対応が、あるにはあったんですけども、そこまで手厚くサポートはしてくれなくて、そのときに通っていた塾の先生は手厚くサポートしてくれたんですけども、今、立川市ではどういう対応をしているのか教えてください。

（市長）

立川市に住む不登校の子どもたちは、中学生が平均値よりもちょっと多いというデータがあります。

たぶんその理由って人それぞれなんだよね。実は私も小学校のときに、昔は登校拒否って言った、学校行きたくなかった。私の理由は簡単で、牛乳が嫌いだった。牛乳嫌いで昔は飲み切るまで給食が終わらない。三角牛乳で、それが小学校2年生か3年生ぐらいまでだったかな、嫌で嫌で給食が。飲み終わるまでずっと残されるから。わざとおなか痛いとか熱出たとかって仮病使っていたんだけど。

そのときの学校の先生は、担任の先生は当時何もしてくれなかった。たまたま産休で先生が臨時で来たちょっと年配の人がいて。酒井君、何で牛乳嫌なのって。その当時中が見えないから嫌だって言っちゃった。そうしたら、牛乳瓶持って来られて。これなら中見えるよねと言われて、屁理屈だったんだけど、その先生は嫌だったんだけど、それをきっかけにこっちも引けなくなっちゃって、学校をその後行かないということはなかったという経験も私自身はあります。

人それぞれ何がきっかけで、きっかけをさらにどんどん根深くしちゃうと本当にどんどん行

きたくなくなるじゃないですか。だから、そこをサポートするためには、スクールカウンセラーとか何とかっていうのをやってはいるんですが、ただそれが効果が表れているかというと、私はまだまだ足りないと思っていて、逆にこういう皆さんとお話をする機会があるとき、先ほども中学でというお話で、先生に声かけてもらってっていうのはあると思うんだけど。私のきっかけはそれで解消されて。皆さんもそういうのはあると思います。中学になったら選択制になったから牛乳飲まないで全然解消されたんだけど。行政だとかあるいは学校だとか、あるいはそうでない人たちがどういうふうに皆さんに声を、塾の先生がという話をしてくれたけれども、どこからどういうアプローチが、あのときあったら、自分が行けたのにとか、あるいはこういう経験で今ここに皆さんこういうふうな形で一緒に話ができるようになっているのということがあったら教えてください。

質問されて、立川市は一応は他市でやっているようなことは一通り、メニューとしては揃っています。でも、なぜか出現率は、特に中学生は高い。そこを何とかしたいと思っているんだけど、その何とかするベストを皆さんから吸収したいなと思っていますので、ぜひ教えてください。

（参加者）

私も中学校の頃不登校になりまして、不登校になったばかりのときはどこに行けばいいのとか、ただ家にじっとしているしかなくて、でも学校には行きたくなくて。家でもなくて学校でもない第三の居場所が欲しかったです。そこで、家の近くに子どもの居場所という何か団体なのかな、運営している居場所があってゲームしていてもいいし、勉強しなくていいし、とりあえず子どもたちが集まって好きなことをしている場所みたいな。もちろん一定のルールはあるんですけども、そういうところの場所があって、そこに最初は行きだして、それからちょっと勉強してみようかなみたいな気持ちになり、通っていくうちになって、そこからフリースクール行ってみみたいな感じなんですけれども。

やっぱり、不登校とか学校に行けなくなっても行ける場所、まずは勉強を強制されない、何も強制されない場所があるとすごいいいのかなと思います。

（市長）

立川市にも一応そういうところがあったり、市内小学校と中学校2か所しかないんだけど、それはちょっと学校的だけど、あとはNPO法人でいろいろ居場所をやっているところとかを応援したりだとか。プラスこれは立川市は今小中学校給食無償化をしていて、たぶん多摩地区の中では結構早いほうで、他市の市長さんたちから、無償化本当にやるのとかって言われて、足並み揃えようバイアスがあったんだけど、やるって言ったらやるのって言って。そうしたら東京都もお金出してくれるって言って、中学校まで無償化にしました。

私の思考回路は今子育てってお金かかるじゃない。月4、5千円で、年間5万円ぐらいの食材費の負担の軽減になるなと思ってやったんだけど、実際、中学校までやったときに、ある市内の学校の校長先生と話したら、市長、無償化にしてくれたんで給食だけでも食べにいいよと、勉強しなくてもいいから学校に給食の時間だけ食べに来て、あとはもういいよって言って、それでもちょっときっかけになったというお話、主目的は別だったんだけど、そういう効果もあるんだっていうことで、ちょっと嬉しくなってます。

さらに、今立川市では、ちょっと遠いんだけど、給食センター、共同調理場になった関係で、そこで余分を作っているんです、何かあったときのために。それをまず週1回だったのかな、ご飯食べに来ていいよということを決めているんです。ある係長さんからの提案で始ま

り、いまは小学生、中学生、予約なしで当日でオーケーですと、一応そういうふうになっているんだけど、親も一緒についてくる場合、おじいちゃん、おばあちゃんも、余って捨てるくらいだったら食べてもらったほうがいいんだから、どうぞどうぞという形で小中学生と、そこに付添いの親だったらどうぞというので、今事業をやっています。

ただ食数に限りがあるので、それはごめんなさいというのをちゃんと言っておけばいいんだからと言ったら、少しずつ来てくれるようになって、結構おじいちゃん、おばあちゃんとかと一緒に来る人が中学生とかでもいるみたいなんだよね。

だから、そういう緩い感じで表に出て、同じような境遇の中でいじめられたとか、何かのきっかけができて、別に学校だけが私は全てではないと思っていて、とにかく社会の中で生き抜いていく力をつけてもらえるような、そういった機会はいろんな形で立川市の中でも増やしていきたいなと思っています。

なので、初めからそれ言っちゃうとあれなので、どういうことをきっかけにしているのかなというので、何をやってもいいので、必要に迫られれば勉強するようになる。知的好奇心、何か自分が知りたい、探求したいという好奇心が生まれればそこにぐっと行くじゃない。そのきっかけの芽が見つかるような場所がいろんな形で、行政で全部セッティングするというわけにもいかないけれども、そういうことをやりたいという地域の人たちを、立川市としても応援していけばいいなと思ったりしています。すみません、私ばかり話してしまっ。

(先生)

ざっと聞きますね。不登校経験のある人はいますか。

じゃあ、どうぞ。

(参加者)

市長と誕生日が同じです。

私は中学校に行けていなかったんですけど、行けていない理由が友達が嫌だとか、学校の雰囲気嫌だとかことだったんですけど、高校になって最近、学校のスクールカウンセラーの先生に、読字障害がもしかしたらあるかもと言われて。文字を理解するのがとても苦手で、そういうのがあって行けなくなる子もいるんじゃないかなと思います。

立川市って通信制高校めっちゃ多いじゃないですか。その中にたぶん私のほかにもいると思うんですが、そういう子たちが、やっぱり不登校、本当は行きたいけれども読むの苦手だとかあるんですよ。そこをどうかしてもらったら嬉しいなと思います。

(市長)

何となく言葉じゃないんだけど、それって小さいうちにそれが分かっていると、それにどういうふうに対応していくかということもあるし、ある程度、小学生だとか中学生になってからも気がついてみればねと。昔はそんなこと分からなかったけれども、医療だとかそういう医学の知見があって、そういう人が分かって、それにどう対応したらいいのかということがちゃんと開発されてくると、それに対応できるんだよなということもあるので。音は大丈夫だけれども、そういうことですよね。

(先生)

もしよかったら、そういう生徒がたぶんいっぱいいるので、学校全体でアンケート取ってみてもいいかなと思います。

（市長）

公立の学校とかでも行きたくなくなっちゃうということを未然に防ぐ中では、例えば小学校とかで何となくアンケート、つらいことがあったら。逆に普通にアンケート取ってみて、そういう潜在的にそういうことを感じている子がどれぐらいいるのかということを、何となくアンケートで取ってみて、もしそういうふうな生きづらさとか、ここがちょっと駄目なんだよなというところに早めにアプローチをして、この子はほかではこういう特技は持っているけれども、ここはちょっと苦手なんだということは、そういうところを早めに対応していくと、今おっしゃっていただいたようなことに対応できるのかなって思います。

（参加者）

実際、私も見づらいんですけども、青色の眼鏡をつけると文字が見やすくなるということを見つけて。実際、それをつけて授業を受けていると、あいつふざけているってなるじゃないですか。そこを理解してくれるように支援してくれたりすればいいなと思います。

（市長）

そういうことも世の中にはあるんだという、人それぞれだしということをそれは逆に社会がちゃんと寛容になって受け入れるようにしていけないといけない。それは促して情報発信していったほうがいいことだなんだろうなと思いました。

人によって見え方の光って3色の組合せで、印刷物は4色だけれども、普通の映像、目に見えるものというのは3色の混合じゃない。何かの部分が苦手とかというところを補うことによって、要は見えやすくなるということだよ。

（参加者）

そうですね。紙の色とかもちょっと変えるだけでも見やすくなります。

（市長）

それは全然無知で、そこにはあまり意識持っていなかったもので、ありがとうございます。

（参加者）

こちらこそありがとうございます。

（先生）

ほかにありますか。

（参加者）

立川市に児童相談所、一時保護所が設置されていると思います。私がいたときは、長期入所というのが結構あって、2ヶ月までというふうに区切られているじゃないですか。結局、私は6ヶ月いたし、それより長い子だっただけですけど、その原因と私が思っているのが、里親とか児童養護施設を結ぶことだと思っていて、そこにつながらない。なので、里親になりませんかという活動の増進、それから、虐待とかそういうものじゃなければ児相には行かないので、立川市で児童虐待防止とかやっていることありますか。

（市長）

基本的には、改正児童虐待防止法になってから通報義務が生じて、それは立川市の子ども家庭部の中でそういった対応はしているんだけど、ただ、23区内と違うのが、立川市の児童相談所というのは東京都の施設なんです。立川市の中で持っているのは4つぐらい。保健所とかは23区内ではそれぞれの区がやっているから施策と連携しやすいんだけど、少し言い訳になってしまうんだけど、連携は当然しようとしているんだけど、シームレスかというと東京都と立川市は行政体違うから、友達のようにという話にはなかなかならないと。

その一方で、立川市にはこの近所にも古くからの児童養護施設である至誠学園さんというところがあって、昔、私関心持っていたのに気がつかされました。里親のことでちょっと八王子市でそういうことを一生懸命やっている方がいて、都議会議員やっていたときには里親の受入れ家庭を増やしていかなきゃということを、都議会議員のときには言ったこともあったんだけど。それもやっぱり必要だよ。立川市でも里親を、でも最後行き場なくなっちゃうということにならないように、里親も誰でもいいというわけでもないしね。

児童養護施設とか、あるいは児童相談所の中のことまでは、都議会議員やっても中までは教えてくれないし、でも漏れ伝わるところによると、ある人から私言われて、それは選挙前に言われたんだけど、それは、別に虐待とか何とかではなくて、親御さんがちょっと病気とか何とかで一時利用したくて、そのとき立川市のファミリーサポートという形で、日野市と一緒にんだけど、至誠学園さんに1週間とか2週間子どもを預かってもらうところがあるんだけど、そこがたまたまいっぱい、児童相談所に自分の子ども預けることになったんだって。

そのときに、うちの子どもは狭い空間の中で何かされるのが駄目なんだって言っていたのにもかかわらず、狭いところでシャワーとか何とかやられて、あんな怖いところ二度と行きたくないというトラウマみたいになっちゃって、それで、私市長選挙の前にあるお母さんから、もう二度とそういう児童相談所に行かなくてもいいように、一時的な、虐待のときとは違う話なんだけども、そういったときに使いやすい施設を増やしてほしいんだよねということで、それは、私の政策課題の中にもあって、少しでも増やしていきたいなというふうには思っています。里親のことを思い出させてくれてありがとう。そこの部分についても立川市としてどういう形で、一義的には東京都がやっているんですよ。里親募集というのがあって、里親研修みたいなのは当然やっているの、東京都の事業を立川市の中でどういうふうに見ていくのかということになるのかもしれないですけども、それは思い出させてもらったので、ちゃんと上手く制度設計と併せて立川市としても受け入れていけるような形の周知をしていきたいなと思います。

（改革推進課長）

時間的には、このテーマに限らずあとはフリーに意見交換みたいな形でもいいですし、もう一人ぐらい意見いただいてもいいかなと感じなんですけれども、いかがでしょうか。

（参加者）

さっき話にあったんですけど、文字がというのがあったと思うんですけども、私、学習障害がありまして、漢字の読み書きが基本的にはできないんですよ。なので、中学校とかにもテストのものとかには読み仮名をつけてもらったりとか、他は、もちろんプリントとかにもふりがなを振ってたらいいんですけども、そういうのは特にはあまりなかったんですよ。

特別支援教室とか、子ども未来センターの学習相談、学習支援とか、ほかにも療育センター

とかも行っただけなんですけれども、結局学校でそういう自分の求めるベストの対応というのはあまり得られていなかったんですよ。なので、もうちょっと子ども未来センターとかに対して、そういう制度はあるんですけども、利用者主体の自分の希望が通って、ちゃんと見てもらえるようになったらいいなと思っています。

（市長）

それは、今漢字がという話じゃないですか。公立の学校で授業をやると、習熟度というか学年においてここまでの漢字は分かっているよねとなると、当然読み仮名がつかなくなるじゃないですか。今のお話の中だと、例えば学校ではない場所でそういったことに配慮をしたような、そういう個性のある人もいるんだというところで、別に勉強できないわけでも、していないわけでもないけれども、漢字というものが入ってこない。平仮名とか片仮名だったら入ってくるというところで、通常の社会の何かを学ぶとか、理科を学ぶというときに、別に平仮名ついていたら何の問題もないわけじゃない。

それは、公立の学校でそういうふうな配慮ができるのが一番いいのかなと思いながら、ただ、今学校の先生も教員の働き方改革とかって言われている中で、どこまでその学校ごとに個別に、いろいろと、色のこととか、漢字のことに対応できるのか。みんなにとっては、今まで行っていた学校でそういうのが普通に行われるというところが、最終形としてはいいのかなというふうに思うんだけど、その過渡期という、そこに向かうまでのそういったいろんな特性を持っている子たちにちゃんと対応すれば、別に不登校にもならないし、学びの機会を喪失することもないというところを、どこで、その過渡期だったら、さっき言ったように支援センターとか、どこだったら許されるかな、許容範囲。教育委員会とも話そうと思います。

（参加者）

特にどこがということではないと思うんですけども、自分は特別支援教室とかも利用してはいたんですけども、そうじゃなくても単純にクラスで、自分は漢字が読めなくて困っていると言ったら、その時点で全部とは言わないですけども、テストとかだけでも読み仮名を振ってもらったらいいなと思っていて、最初漢字が読めないという、単純にサボっているだけじゃないかとかそういうことも結構あって、なかなか読み仮名って振ってもらえなくて、振ってもらえるようになって対応が人によってまちまちだったりして。

（市長）

先生によって、そこまで熱心にしてくれる先生もいればそうじゃない人もいるから。だからまず今の話のたぶん通底しているところというのは、それぞれ本人が別にそれが分からないとか、サボっているとか、努力が足りないとかっていう、中にはそういうものもあるかも。けれども、そもそもそういう部分について適応がなかなか難しいという、そういった個性があるんだということをちゃんと教える側もあるいは周りの子も、何か1人だけやっていると周りが何でおまえだけみたいなのにもなりかねないじゃない。そこも周りの友達も含めてそういうこともあるんだよという、だからこういうふうに内輪の言葉で言えば配慮をしていくんだから、それはそれで受け入れようよということの措置をつくっていくということだよ。

そこに気がつかなければ、それに対応しようと思わないじゃないですか、先生も。それは私のからも教育委員会を通じて今日、明日、すぐ変わるかというそういう話でも、たぶん人の意識を変えるというのは一番難しい話なので、教育委員会を通じて学校長の皆さんにも、いろんな特性を持っている人たちがいるんだということをちゃんと理解をする、している先生も多

いと思うんだけど、それをなるべくオーソライズしていくという、そういったことはきっと地道にやらなくちゃいけない課題だと思います。それが誰一人取り残さないと教育委員会は言っているんだけど、それってそういうことでしょうかというこの裏づけのお話として、一応学校教育の現場のことは、市長は直接ああだこうだということではなくて、教育委員会を通じてということになるので、教育委員会と情報共有をしたいと思います。ありがとうございました。

（改革推進課長）

では、ここからは、もうこのテーマということではなく、市長にぜひこれを伝えたい、これも聞いてみたいということで、できればまだ発言されていない方を優先でお願いしたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

（参加者）

私、小さい頃からよく立川市へ家族で出かけたりとかしていたんですけども、すごく交通の便がよくて商業施設もあったりしてすごく充実したまちだなというふうに感じていて、最近だとGREEN SPRINGSとか駅前も栄えていると思うんですけども、今後も立川市をどういうまちにしたいのか、こういった施設をつくりたいというのがあれば教えてください。

（市長）

民間のそういう商業施設については、これはもう民間の人たちが自分たちで。今でいえば立飛さんが一生懸命にやっていたいて、これはこれでありがたい。ただ、その一方で行政という観点から言うと、当然どういうまちになってほしいのかというところはあるので、そこにどういうふうに行政的に、規制をかけたりあるいは緩和したりというところで、誘引策をつくって誘致をするということもあれば、乱開発されないようにちょっと抑えるというところもあるんですけども、私自身は、4月から第五次基本構想というものが10年後の未来を見据えてというところでは、未来のビジョンを「魅力咲きほこり つどい華やぐまち 立川」にしたいと。ちょっと古典的でしょう。

魅力というのは、まちの魅力、そういった商業施設の魅力もあれば、それぞれの個々のいろんな文化活動や芸術、あるいはこんな得意なことがあるってそれも魅力、何か会社でいえば起業してみたい、最初は応援するよと、でもあとは独り立ちしてねと、ずっと面倒見るわけにはいかない。文化活動と芸術活動はもうよく行政はずっと応援し続けて、行政が手を引いたら続かなくなっちゃうというのがある。でもそれは、市民のお金で何かをやる以上は、民間代替性がないもの、あるいは公益性、より多くの市民が関われる、関われないのかということで、行政がより多くの公益という意味で関われることだから税金を使う。あるいは民間に代替性がないから行政がやらないと、例えば文化財なんかは守れないということは出すべきだと思うんだけど、ずっとお金を使って何かをするということはふさわしくないと思っている。

ただ、何かの創業のきっかけだとか、あるいは何かの芸術だとか文化だとかというときも、最初の3年、5年ぐらいは難しいんだ。アイドルで売り出そうとかみんな何かをつくりたいとかなんとかって、例えばそういったときの最初の本人たちがやるところのスタートアップの部分については、これは未来への投資だと思っているから、そういったところのまさにプラットホーム、電車がやってきてそこで何かの知識を得たりとかなんか応援受けて、また次のところへ行って、次から次へと新しい創造が生まれるようなまちにしていきたいなという、ちょっと漠然とした話しなだけで。

文化芸術をGREEN SPRINGSでやっているんだけど、少しくラシカルなことだったりだとか、伝統文化だとか、あるいは吹奏楽でも管弦楽でも演劇でも、そういったことが立川市でできるような拠点、今市民会館があるんだけど、いつか老朽化するのであって。老朽化したときには、立川市が多摩の芸術文化の発信拠点みたいなことに、私が市長のうちに何かそういったきっかけがつかれるといいなというふうに思いながら。それで、どんどん人が立川市に遊びに来た人が立川市に住みたくなっちゃうというようなことで、皆さんに説明するなら立川市が磁石、事業での中心になるようなまちになるようにして、磁石っていろんなものを引き寄せるじゃないですか。ついちゃったら離れないでしょう、というようにいろんな人を巻き込んで、渦のように立川市に客が集まってくるような施策を市長としては、まちはそういうふうに運用していきたいし、施策としてもそういうことにつながるような政策を考えながら。

ただ、政策を考えたときに、全部がそうはいかない、でもさっきの学校給食は、私はそこまで考えていなかったんだけど、2つの効果を生んでいるじゃないですか。何か1つをやって終わりじゃなくて、1つのことをやったことによって、副次的な効果が得られるような思考回路をなるべく持つようにして。何かやったら、これも皆さんとこういう機会を持つということは、皆さんからの意見を聞いて、皆さんにとっては市長と話ができたというところで、そういう一義的な目的、私も皆さんと話ができる。でも、皆さんからいただいた、今日いろんな種をいただいて、それを一旦自分の中で吸収してどういうふうに展開したら、ここにいるみんなじゃない人たちが幸せを感じてもらえるようなところにつなげていける。

また、まちで会ったら、覚えているかって言って、もしかしたらいろんな人に会うから覚えていないかもしれないけれども、あの時ねって言ってああってなるような、そういった関係性を私は市長としてまちの皆さんと築いていきたいなと思ったりします。

（改革推進課長）

あとお一人。

（参加者）

質問とはまた違った感じなんですけれども、SNSを使った宣伝するという話になったときに、既に人気のインフルエンサーを使って立川市を宣伝したりすることとか、私インスタのリアル動画ってよく見るんですけれども、そこで立川市を紹介しているインフルエンサーの人が、たまに流れてくる動画があって、それでこんなお店があるんだ、あんなお店があるんだと知れるきっかけになっているんですね。そうやって、有名なインフルエンサー使って立川市を宣伝したりしないのかなと思いました。

（市長）

それもありだよな。

（参加者）

今年、まさに大使的なやつでプロモーション。何かちょっとそういうやっていこうみたいなものがあるのでしょうか。

（市長）

従来、オールドメディアと言われるような人たちへの行政発表というのが主流だったのね。それも彼らのフィルターの中で取り上げられたり、取り上げなかったりということで、私なん

かでもスマホでネットニュース見たりだとか、Googleアラートで言葉を設定しておいて、毎晩11時になると立川市の記事載っているのを検索して、来るのを見てみたりというのをしているんだけど。

そういったインフルエンサーの、相手方が嫌と言われちゃうとあれなんだけれども、うまくそういった部分ではコラボレーションできればなと思っているし、今日取材されているJ：COMさんも立川市にとってはインフルエンサーだと思っているんだよね。一定のお客さん持っていて、こういった立川市の学校で学ぶ機会を得ている皆さんがいると、そこへ何となく市長がぶらっと来て、いつもどおり何か話しているなということのをうまく出してもらうことによって、立川市に興味を持ってもらう。

立川市って検索したらいろんなこと引っかかるんじゃないかとかっていうことは、これから仕掛けていきたいと思っています

(参加者)

立川ダイスとかスポーツの盛り上がり具合とか、そういうのを市長として見ていてどう思いますか。

(市長)

立川ダイスさんとか、私もちょっと開会式とか呼ばれて行くんですけども、私もそういうスポーツを通じて立川市全体を盛り上げていってもらっているのはありがたいことだし、立川市としても協力していきたいな。ただ、私が立川ダイスの試合を見に行くと必ず負けるの。これは逆に私が見に行かないのが最大の応援なのかなとかって思ったりして。

ただ、市長としてもそういったプロスポーツの方たちのイベントに、来なくていいですと言われるまでは、協力していきたいなというふうに思っているし、皆さんがスポーツを楽しめるような環境というものも、見て楽しむスポーツもあるし、自分でやってみて楽しむスポーツもありますので、ぜひ皆さんもそういった知的好奇心をくすぐるようなまちになりたいなと思っています。

(改革推進課長)

では、予定の時間近づいてまいりましたので、以上で意見交換は終わりたいと思います。

本当にたくさんの意見をいただいて、また自分自身が体験したこと、こうだったらよかった、もっとこうしてほしいということの意見、たくさんいただいたと思います。ありがとうございました。市長にとっても大変意義ある時間だったというふうに思います。

最後、振り返りのご挨拶を市長、お願いいたします。

(市長)

本当に今日は皆さんから、いろんなご意見などを頂戴してありがとうございました。

私がちょっと忘れていた昔の思い出も思い出ささせていただいたり、あるいは知らなかった、そういう特性を持っている人もいるんだということも聞かせていただいて、教えていただいて、これからの市政の運営をする中で、どちらかというと私が直接というよりも、教育委員会を動かさなきゃいけないとかっていう課題も多い部分もあって。あるいは他の自治体とどういうふうに連携していくのかという、そういった宿題もいただいたと思っています。本当に皆さん方と貴重な時間を持てて嬉しかったです。

せっかくの機会なので、皆さん、いろんな人生の経験を積まれてきている方たちなので、釈

迦に説法かもしれないですけども、ぜひ高校生という世代なので少し話をさせていただきます。この間二十歳のつどいがあって、そのときに市長っぽい堅い話とちょっと砕けた話どっちがいいと言ったら、砕けた話がいいと言って話をしたんですけども、1つは、世の中というのは何事も経験です。私はいま、市長という職業をやっています。その前は都議会議員でした。その前は26歳から市議会議員をしています。市議会で何を目指していたかという、私が18歳のとき父親が市議会議員をやっていたんだけど最後落選をして引退をしました。なので世襲っぽいんだけど、父親のさっきの平和の話、うちの父親はとにかく政治家の責任だと、政治が悪いと戦争が起きるんだということを言われていたということを子どもながらに聞いていたから、そういった父親の思いを立川市からやっていきたいなと思って、都議会議員になったんだけど落選もしました。突然職がなくなるという経験をしました。

市長選挙でも1回落選しています。10回選挙やって8勝2敗です。都議選1回落選して、市長選挙も1回落選して、でも諦めずにいて今の地位にいます。そのときに、ちょっと漢字使っちゃって申し訳ないんだけど、人間万事塞翁が馬なので、世の中そのときには辛かったり悪いと思っても、その経験をしたからこそ、それが今の自分につながっている、未来につながっていることって本当にあるんだなと思って。

そのときに経験したのは、人の冷たさと温かさ、選挙に落ちたとき家族はもちろん支えだったけれども、今までと都議会議員だったから私の近くに寄ってきた人、さっといなくなる人がいます。その一方で、当然苦しいじゃないですか、仕事がない。私、幸い行政書士という仕事を持っていたから、そこのベースをどうやって広げていこうかということと、それと福祉の仕事を新たに立ち上げるとかという、それもまた勉強になったんだけど、そういったときに助けてくれる人というのは明らかに分かりました。

それはそれで、自分の中で助けてくれた人の恩はしっかりと胸に刻んでも、世の中というのはいいときに寄ってくる人よりも、辛いときに寄り添ってくれる人をぜひ皆さん、見極めて大切にしてください。そういった友達をぜひ作ってほしいなと思っています。

それと、先ほどからSNS等々で話があるでしょう。今Xだとかなんとかで炎上しちゃってなんとなかっていう話があるじゃないですか。Xは幅広い世代なんだけど、そこで人の悪口を書いている人とかいるけど、その意見が世の中の全ての意見じゃない。もし皆さんが何か投稿をして、それについて何か批判が来ても最後は気にしない、そんなの関係ないって思う鈍感力も持ったほうがいいのかと。

これは確かにそうだよなって、自然の摂理というのがあって、どんなことをやっても2割の人は絶対批判者になる。何をやっても批判してくる。でも、同じだけ2割の人は賛同してくれる。残りの真ん中の6割はどうでもいい、無関心なんだけど、この比率というのは変わらなくて、その2割の人だけと仲よくしようと思っても、その2割の中でまた2、6、2の原則になってくるとのことなので、何かやったときに、批判者に会ったときにはそれと同じだけ自分のことを賛同してくれる人がいると思っています。

でも、逆に自分がいいと思っても批判者はいるんだ、皆さん、これからどんな仕事をするか分からないけれども、批判者はいるんだと。批判者がいない世界というのは、どこかの国のようになってしまうから気持ち悪いというふうに思ってもらって、皆さんこれから、これまでもいろんな経験してきただろうけれども、これからのいろんな経験をしたいと思います。私も政治家として順調だったときもあれば、挫折も味わいました。でも、自分で諦めなければそこまでは負けではありません。いつか自分の心だけ強く持って信じてやっていけば、それでも報われないこともあるかもしれない。けれども、報われることもあるので、これからの皆さんの人生がさらに開けていけるように。皆さんは自分たちの困難の中から一步を踏み出す勇気があ

る人たちです。君たちがもう恐れるものは何もないと思います。前を向いて、過去は変わらな
いけれども未来は変わると思っで一緒に頑張っていきましょう。

以上です。本日は、どうもありがとうございました。

—— 了 ——